

妙専寺寺報

光城山
妙専寺

33号

お葬儀の基礎知識

葬儀とは、身近な人の死という悲しい事実を通して、自身のある方を根本的に見つめ、真実の教え、仏法に出遇っていく儀式です。そしてご往生された方が、仏様と成り、阿弥陀様とともにこれから私たちを見守り導いてくださることへの感謝の心でお念仏を申していきましよう。



※同じ浄土真宗でも、地域、寺院によって勤め方に若干の違いがございます。ここで示すのは妙専寺での一例と思っております。

①臨終勤行(枕経)

・亡くなって最初に行うお勤めです。故人に

代わって家の仏様にお礼のお参りを致します。

ほうみょう

・法名「釈○○」とは

法名とは仏弟子としての名前です。仏教徒は皆さん法名が付きます。本山でもらうていればご用意ください。お仏壇の引き出しに保管されている場合が多いです。無ければ妙専寺で皆さんにお付け致します。

・院号「○○院」とは

特別に仏教に寄与した方に付く名前です。付きたい場合は妙専寺にご相談ください。

②通夜



・夜を通して亡き方に寄り添い、無常を受け止めていきます。

・ご一緒に正信偈を拝読致しますよう。

③葬儀

・亡くなった方に私が本当の人生とは何かということを学び、いのちの不思議を感じ、阿弥陀如来の救いに出遇う儀式です。



④還骨勤行・初七日法要

・火葬が終わり、お骨となった姿で帰宅し、仏様にお礼を報告するお参りを致します。

⑤届参り

・葬儀の翌日などに、お寺の仏様にお礼参りを致します。

⑥七日参り

・七日ごとにお参りを致します。家族だけでお参りをされてもかまいません。

⑦満中陰（四十九日、地域によつては三十五日のお参り）

・日常生活の中で悲しみを受け止め、故人を偲び、感謝し、お念仏とともに過ごします。

⑧百か日参り

・小規模で勤められたり、家族だけで勤める場合もあります。

⑨納骨のお参り

・お墓で納骨のお参りを致します。

・ご希望であれば宗祖親鸞聖人のお骨が

安置されている、京都の大谷本廟に

も分骨を致します。妙専寺では数年に一度、バスにて団体参拝の納骨旅



行を行っていただきますのでご希望の方はご連絡ください。

⑩永代経

・門信徒の方々のご懇念によって、お念仏が永代に渡って受け継がれていくための法要です。

⑪初盆

・亡くなってはじめて迎えるお盆の法縁です。お寺の法要や、地域の法要にもお参り致しましょう。

⑫年回法要

・1年後に1周忌。そこから数え年で、2年後に3回忌、6年後に7回忌、13回忌、17回忌、25回忌、33回忌、50回忌、と続いていきます。



一言法座

法要では様々なご講師の先生が分かりやすく仏様の教えを説いてくださいます。その中のほんの一部を掲載致します。全て聞きたい方は是非、法要にお参りください。

11月16日 報恩講法要

岡本法治師の法話を要約

思い通りになったと喜んでいる者のそばには、思い通りにならないかったと悲しんでいる者がいます。しかも、十年思い通りになったとしても、十一年たてば思い通りにならなくなります。三十年思い通りになっても、三十一年たてば思い通りにならなくなります。思い通りにしようと思う心が、思い通りにならない状況を作り出すのです。

南無阿弥陀仏は、あなたはすでに豊かな人生だと教えてくれます。あなたはもう阿弥陀様とともに、阿弥陀様の子として、阿弥陀様のお浄土に生まれていく尊い人生だと教えて頂くのです。

3月5日 仏婦總會法座
法林英俊師の法話を要約

「別れ路を さのみなげくな 法の友 また会うくにの あると思えば」父が亡くなるまで、死んだらどこに行くということは難しく考えていましたが、父が往生してからは、あの父がいるところと言えるようになりました。

この体のいのちから、南無阿弥陀仏のいのち、無量寿のいのちへ帰って行くのです。

4月11日12日 永代経法要
桑原浄昭師の法話を要約

お正信偈のなかに「拯済無辺極濁悪」とあり「拯」とは手で水をすくうという意味を表しています。

阿弥陀様は迷いの世界でおぼれている者に、ロープを垂らして登ってきなさいとは言いません。なぜなら自分の力でロープをにぎって上がってくるのが困難だと知っているからです。阿弥陀様は迷いの海に自らが飛び込んで、阿弥陀様の力で拯い

（すくい）上げるのです。それが阿弥陀様の他力本願のおすくいなのです。

5月19日 降誕会法要
久留島法暁師の法話を要約

福井県のある地方では、阿弥陀様のことを「はたらき様」とよんでいるそうです。

皆さんの阿弥陀様はどこにいらっしやいますか？家の奥の仏壇にいますか？

阿弥陀様は今ここで念仏の息となつて、私の胸に出たり入ったりして、はたらいてくださっているのです。

9月14日15日 地域法座
藤井大樹師の法話を要約

ある方がお子さんを授かりましたが、そのお子さんは難病を持つており、生まれてすぐに集中治療室に入ることになってしまいました。それからは何度も何度も手術を繰り返す生活となりました。

しかし、何度手術をしてもお子さんの体調は良くはならなかったので

す。生まれてからずっと集中治療室から出ることもできなかったのです。そうした状況で4年が経過し、ご両親は疲れ果ててしまっていました。お医者さんから今度の手術の説明を受けて、どうされますかと問われても、何度手術をしても良くはならないしもうどうにもできないと思つたそうです。

そのことを母親に相談したところ、「病気のことはお医者さんにまかせなさい。いのちのことは阿弥陀様にまかせなさい。」と言われたのでした。その言葉を聞いてからは気持ち が楽になり、6歳で亡くなるまで、ちゃんといのちに向き合い、ちゃんとお子さんと向き合つて、かけがえのない時間を過ごすことが出来たそうです。

全てを受け止めてくださる阿弥陀様に出遇えたなら、どんな状況でもかけがえのない尊い人生として、安心の人生を歩みきっていくことができるのです。

任職法話

中島みゆきさんの歌に『糸』という歌があります。「縦の糸はあなた 横の糸はわたし 逢うべき糸に出逢えることを 人は『仕合わせ』と呼びます」という歌詞です。

ここでは逢うべき糸に出逢えることを「幸せ」ではなく、『仕合わせ』と表現されています。これは昔から使われている表現なのです。

善導大師は「お経、仏様の教えは縦の糸である。しっかりととした縦の糸によって横の糸である衆生の人生が支えられ布ができていく。」と説かれました。

私の人生をしっかりと支え導いてくださる仏様に出逢えることを、仏様に仕えるという意味で『仕合わせ』と昔から使われていたのです。

去年の豪雨災害のあと娘

さんの家で長らく暮らされていたある方から、この秋やつと家に帰ることができましたとお電話を頂きました。

元通りの住める家にするためには何百万も借金をしなければならぬということ、このまま娘の家で暮らそうかとも思ったのですが、ここには「阿弥陀様がいらつしやるから帰ってきた」とおっしゃっていました。そして一緒にお仏壇にお参りしたのち、「私は阿弥陀様がいなかったら生きていけない」と涙を流しておっしゃられています。

皆さんは阿弥陀様がいなくても生きていきますか？ 目先のことに追われ、損か得か、勝ちか負けかで手に入れた物は、最後には全て手放して失っていくかねばならないのです。

また、健康にいくら気をつけていても、老いは確実に深まっていき、最後には

その体さえも手放していち終わっていかねばならないのです。

阿弥陀様がいらつしやるなければその人生には何が残るのでしょうか？

阿弥陀様はこのいのちの意味を与えてくださるので

私たちは意味なく生まれ てきたわけではありません。これまで長きにわたり迷ってきた私が、阿弥陀様に願われて、このたび仏法に出遇う身として生まれさせて いただいたのです。

また、阿弥陀様に遇えば、むなしく終わっていくのちでは無くなるのです。生老病死を超えて仏様と成つていき、我執を超えて自利利他円満の慈悲を行う身にならせていただくのです。仏様に出遇えたことによつて私たちはこのいのちに大きな意味を頂き『仕合わせ』な人生を生ききっていくことができるのです。

秋初穂のお願い

平素は寺院護持に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

今年度もご無理をお願いでござい ますが、お初穂を十二月五日にご仏前にお供えを戴きまして、仏祖の御冥助に感謝申し上げます。

ご多忙中とは存じますが、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

土曜学校

お友達と誘い合つて、お経やゲームをしながら仏様の教えを学びましょう。毎月第二土曜日 朝九時より十時。無料です。

法座案内

御正忌法要

一月十五日(水)

十六日(木)

御講師 吉村隆真殿

光寿会法座

三月 四日(水)

御講師 法林英俊殿

永代経法要

四月十四日(火)

十五日(水)

御講師 寺西龍象殿

